

書名		新編 新しい社会 地理	2 東書
項目			
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○世界の各州・日本の各地方の学習の最後に、「表」「ウェビング」「イラストマップ」といった多様な方法で学習内容をまとめられるようになっており、地理的な見方や考え方を育成するようになっている。</p> <p>○地図や写真資料、また各種グラフを数多く掲載し、地理的特色に着目して基礎的・基本的な知識や概念が定着するようになっている。</p>		
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間としたとき、各見開きが「導入資料→学習課題→本文→確認」の流れで構造化され、基礎的・基本的な知識を習得させている。</p> <p>○随所に設けられている「地理・スキルアップ」では、地図やグラフの読み取り方・作り方・写真の読み取り方といった基礎的・基本的な技能が定着するようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの右下に設けられている「確認（机マーク）」では、本時で学習した内容を振り返らせつつ、短い文章で説明させたりキャッチフレーズをつけさせたりすることで、思考力や言語表現力をはぐくむようになっている。</p> <p>○「〇〇州（地方）の学習を振り返ろう」や「深めよう」では、その単元の学習内容を深める課題が設定され、思考力や判断力を伸ばすようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○世界の各州の導入部分にイラスト地図や、自然や生活に関する写真が掲載され、日本の各地方の導入部分には各地方の「追究テーマ」に関連した写真を掲載するなど、生徒が学習する地域のイメージをもてるよう構成されている。</p> <p><我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫></p> <p>○見開き左上には必ず資料とともに本誌ならではのキャラクターが配置され、各見開きの学習内容に関する地理的認識を喚起するような問いかけがある。また「えんぴつマーク」では、その地理的認識をさらに深めるようになっている。</p>	
	資料	<p>○本文を補完する資料が従来より増加され、資料の「図番号」を本文にも付すことで、効果的に学習できるようになっている。</p> <p>○各見開きには、数多くの雨温図が掲載されている。また、巻頭には世界の特徴的なイベントやスポーツ、建物や風習などが国旗や地図とともに扱われ、巻末には学習で扱う主な農作物が写真と解説付きで掲載されている。</p>	
	表記・表現	<p>○文章は敬体（です・ます体）を用い、平易で具体的な表現で記述するよう配慮されている。</p> <p>○ふり仮名は、教育漢字外の漢字に、見開き2ページごとに付すことを原則に、本文だけでなく、資料ごとに付されている。</p>	
	総括	<p>○各見開きにおいて提示される学習課題に対し、様々な写真資料やグラフ、地図資料などを用いて考えさせ、最後に振り返りをさせることで基礎的・基本的な知識や技能の定着を図っている。「確認」や「深めよう」で思考力・判断力・表現力を高め、「地理・スキルアップ」や「調査の達人」で作図や読み取りの技能を高めるような構成になっている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p>中学社会 地理 地域に学ぶ 17 教出</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○ページの最後に「ふりかえる」を設定し、基礎的な内容を毎時間確認させるとともに、単元ごとの「学習のまとめと表現」では、地図と資料を使って基礎的・基本的な知識や概念が定着するようになっている。 ○33か所に設けられている「地理の窓」では、学習内容を深化させるようなテーマを紹介しており、地理的な見方や考え方を身に付ける工夫が見られる。</p>
<p>特 色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫> ○見開きを1単位時間としたときに、各見開きの右下の「ふりかえる（ステップ1）」で、本時の基礎的・基本的な知識を再確認するよう工夫されている。 ○各単元最後の「学習のまとめと表現」内の「地図を使って確かめよう」では、地図を読み取って知識をまとめ直す基礎的知識の育成が目指されている。また「地理にアプローチ」では基礎的技能的習得を確認するようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○各見開きの右下にある「ふりかえる（ステップ2）」では、地理的事象に関する説明や表現をするような課題が設定され、思考力や表現力が身に付くようになっている。 ○単元ごとの「学習のまとめと表現」の「表現しよう」では、その単元で扱った様々な資料をもとに、説明したり表にまとめたりする活動が設けられている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○単元ごとに「地域から世界を考えよう」（世界地理）や「現代日本の課題を考えよう」（日本地理）を設けて現実的なテーマに主体的に取り組めるよう工夫され、33のコラム「地理の窓」でも興味・関心を高めるようになっている。</p> <p><我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫> ○各見開き左上のキャラクターが、本時の課題につながる地理的認識をもたせるような発言をし、それに関わる写真資料や地図資料を配置することで、その地理的認識をさらに深めるようになっている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○写真・イラスト・地図・グラフ・図解などの資料が豊富に掲載され、折込ページには大きな衛星画像や伊能忠敬の日本地図も掲載されている。 ○各見開きには、数多くの雨温図が掲載されている。また、巻頭には世界的特徴的なイベントやスポーツ、建物や風習などが国旗や地図とともに扱われ、巻末には学習で扱う主な農作物が写真と解説付きで掲載されている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○文章は敬体（です・ます体）を用い、平易で具体的な表現で記述するよう配慮されている。 ○ふり仮名は、教育漢字外の漢字に、見開き2ページごとに付すことを原則に、本文だけでなく、資料ごとに付されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○各見開きにおいて提示される学習課題に対し、様々な写真資料やグラフ、地図資料などを用いて考えさせ、最後に振り返りをさせることで基礎的・基本的な知識や技能の定着を図っている。「ふりかえる」や「学習のまとめと表現」で思考力・判断力・表現力を高め、「地理にアプローチ」や「見てみよう」、「読み解こう」で作図や読み取りの技能を高めるような構成になっている。</p>

書名 項目	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の風土	46 帝国
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ○「技能をみがく」コーナーでは、地理を学習する上での基礎的な技能を習得させ、それらを用いて各見開きや単元末の「説明しよう」で考察を深める工夫がなされており、地理的な見方・考え方を養う構成になっている。 ○各見開きに大きな写真資料を提示したり、人々の生活のすがたが見える写真を多く取り入れ、地域的特色をつかませるようになっている。 	
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間としたときに、各見開きでは学習課題に応じて「確認しよう」が設けられ、基礎的・基本的な知識を定着させるようになっている。 ○本誌内に25か所設けられている「技能をみがく」コーナーでは、統計資料やさくいんの使い方、写真やグラフの読み取り方、主題図やレポートの作り方などが詳細に解説されており、基礎的・基本的な技能の習得が目指されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の各節末尾に設置された「学習をふりかえろう」には、「説明しよう」や「探究しよう」が設けられ、学習した内容を自分の言葉でまとめたり、表現したりするように構成されている。 ○各見開きの最後には、「確認しよう」とあわせて「説明しよう」が設けられ、本時の学習内容を踏まえて発展的な説明をする課題も設定されている。 <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本誌に2か所ある「トライアル地理」や6か所ある「地域を探ろう」により、生徒が既習事項と実社会を結びつけながら、主体的に学習を深められるようになっている。 <p><我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生などのキャラクターが各ページに配され、発問や気づき、学習の手がかりや示唆などを提示することで、地理的認識を喚起するきっかけとなっている。
	資料	<ul style="list-style-type: none"> ○大きな写真を多用することで各地域に対する臨場感をもたせ、また、人々の姿が見える写真を入れ、各地の人々の営みを実感させるつくりになっている。 ○各見開きには、数多くの雨温図が掲載されている。また、巻頭には世界の特徴的なイベントやスポーツ、建物や風習などが国旗や地図とともに扱われ、巻末には学習で扱う主な農作物が写真と解説付きで掲載されている。
	表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文章は敬体（です・ます体）を用い、平易で具体的な表現で記述するよう配慮されている。 ○ふり仮名は、教育漢字外の漢字に、見開き2ページごとに付すことを原則に、本文だけでなく、資料ごとに付されている。
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○各見開きにおいて提示される学習課題に対し、様々な写真資料やグラフ、地図資料などを用いて考えさせ、最後に振り返りをさせることで基礎的・基本的な知識や技能の定着を図っている。「説明しよう」や「探究しよう」で思考力・判断力・表現力を高め、「技能をみがく」等で作図や読み取りの技能を高めるような構成になっている。 	

項目	書名 中学社会 地理的分野 <hr/> 116 日文	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○地域学習の際、まず州・地方の概要をおおまかにつかみ、その上で地域ごとの主題に沿った学習を設けている。最後に、州・地方の学習を掘り下げ、学習のまとめをし、州・地方の地域的特色を捉えさせる構成になっている。</p> <p>○各見開きの「確認」や単元ごとの「学習の活用」や「学習のまとめ」では、基礎的・基本的な知識や概念が定着するようになっている。</p>	
特色	<p>内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間としたとき、各見開きの側注欄に「学習の確認と活用」が設けられ、特に「確認」欄では学習のポイントの定着が目指されている。</p> <p>○随所に設けられている「スキルアップ」コーナーでは、地図や写真の活用方法、調べ方の学習などが系統的に盛り込まれ、基礎的・基本的な技能を身に付けることができるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの側注欄の「活用」欄では、既習事項を元に発展的に説明したり話し合ったり考察を深めたりする課題が設定され、思考力や言語表現力が伸びるようになっている。</p> <p>○各単元最後の「学習の活用」や「学習のまとめ」コーナーでは、活用と表現に重きがおかれ、学習内容を総合的に用いた作図や説明課題が設定されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○大半の見開きで扱われている「地理プラスα」では、その見開きで学習する内容に関わらせつつ、実社会で起きている身近な話題とリンクさせていることで、生徒の主体的な学習姿勢を導き出すようになっている。</p> <p><我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う工夫></p> <p>○中学生などのキャラクターが各見開きに配され、発問や気づき、学習の手がかりや示唆などを提示することで、地理的認識を喚起するきっかけとなっており、その認識を各見開きの「言語活動コーナー」で深めるようになっている。</p>
	資 料	<p>○図版には「言語活動コーナー」を添え、読み取りに有効な視点を与えている。また、各種の主題地図・雨温図の体裁・配置・サイズを統一している。</p> <p>○各見開きには、数多くの雨温図が掲載されている。また、巻頭には世界の国々の子供たちが学習する様子が地図とともに扱われ、巻末には学習で扱う主な日本の世界遺産が写真と地図付きで掲載されている。</p>
	表記・表現	<p>○文章は敬体（です・ます体）を用い、平易で具体的な表現で記述するよう配慮されている。</p> <p>○ふり仮名は、教育漢字外の漢字に、見開き2ページごとに付すことを原則に、本文だけでなく、資料ごとに付されている。</p>
総 括	<p>○各見開きにおいて提示される学習課題に対し、様々な写真資料やグラフ、地図資料などを用いて考えさせ、最後に振り返りをさせることで基礎的・基本的な知識や技能の定着を図っている。各見開きの「活用」や各単元最後の「学習の活用」や「学習のまとめ」で思考力・判断力・表現力を高め、「スキルアップ」コーナー等で作図や読み取りの技能を高めるような構成になっている。</p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">新編 新しい社会 歴史</p> <p style="text-align: right;">2 東書</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○多様な学習活動コーナーや特設コーナー、コラム欄を設けて社会や学習に対する関心を高め、歴史の大きな流れへの理解や、思考力・判断力・表現力を育てようとしている。</p> <p>○小学校での学習内容や地理・公民分野との連携を重視して、多面的・多角的に考察する態度を育てようとしている。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特色</p> <p style="text-align: center;">内 容</p> <p style="text-align: center;">資 料</p> <p style="text-align: center;">表記・表現</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間として「見通し」「展開」「振り返り」の流れで構成し、各時代の学習を「時代全体の見通し」「具体的な通史の学習」「基本事項のまとめ」「時代の特色をとらえる言語活動のまとめ」の流れで構造化している。</p> <p>○歴史の学習や調査学習を進めるうえでの基礎的・基本的な技能を身に付ける「歴史スキルアップ」「調査の達人」を計17か所設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの終わりに「確認」コーナーを設け、学習内容を短時間で自分の言葉でまとめる言語活動を繰り返すようにしてあり、その活動内容も1学年から3学年までの発達段階に応じた難易度で設定している。章末にも「時代の特色をとらえる言語活動のまとめ」を設けて多様な言語活動の充実をはかっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○見開きの最初の「導入資料」で興味・関心を引き出し、中学生キャラクターの吹き出しで資料読み取りの視点を示し、学習活動を促す「えんぴつマーク」「ためてみよう」や余談を紹介する「ティーブレイク」などのコーナーを設けている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○郷土を愛する意識を養うために、6つの時代に「私たち歴史探検隊」を設けて、身近な地域の歴史の調査方法を紹介したり、近代以降の人物と郷土とのつながりを意識させるため肖像に出身県を付したりしている。</p> <p>○各章のはじめに「時代を概観しイメージする導入部」を設け、各時代の資料を並べて学習の流れをつかめるようにしている。</p> <p>○見開きの最初に「導入資料」を掲載して、中学生キャラクターによる吹き出しで資料読み取りの視点が提示されている。</p> <p>○小さな資料は実物大で載せ、大きな資料にはサイズを付している。</p> <p>○文章は敬体（です、ます）で、ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p> <p>○時代ごとに印刷の枠色を変え、各見開きに時間尺を付している。</p> <p>○巻末に用語解説のページを設け、110項目を解説している。</p>
<p style="text-align: center;">総 括</p>	<p>○他分野の教科書と共通の資料を掲載し、マークを付して多面的・多角的に学習できる工夫がされている。小学校で学習した資料も重複して使い、中学校での学習に系統性をもたせている。</p> <p>○章末で復習する「この時代の歴史の学習を確認しよう」の年表と次章扉の年表とを連続させ、時間の流れを意識させる構成にしている。</p>

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">中学社会 歴史 未来をひらく</p> <p style="text-align: right;">17 教出</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○本文では詳しく触れられない事項や人物を、各時代の特色として特設ページで取り上げ、歴史的事象への関心を高め、歴史の大きな流れへの理解を深めさせようとしている。</p> <p>○各節の単元を基本的に「世界の動き→日本の動き」の順で構成し、時代背景を広い視野に立って考えさせようとしている。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">特色</p> <p style="text-align: center;">内 容</p> <p style="text-align: center;">資 料</p> <p style="text-align: center;">表記・表現</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間として、始めに「学習課題」、終わりに「ふりかえる・ステップ1」を設けて見通しと振り返りをし、章末に取り組む「学習のまとめと表現」と合わせて、段階的な学習を通した学力向上を図っている。</p> <p>○章末に「時代の変化に注目しよう」を設け、その章で学習した時代についての知識を再確認させ、次章につなげるようにしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの「ふりかえる・ステップ2」「読み解こう」のコーナーでは、本時の学習内容の要約や、資料からの読み取り内容を説明する活動を設定している。章末の「学習のまとめと表現」には、「読む（聞く）→考える→書く（話す）」という活動を取り入れ、多様な言語活動の充実をはかっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○見開きの主題は学習内容を象徴する言い回しの見出しにし、中学生キャラクターも登場して興味・関心をひく構成にしている。「学習課題」で課題意識をもち、「ふりかえる」「読み解こう」や章末の「学習のまとめと表現」で復習ができるようになっている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○身近な地域の歴史を調べる学習を時代ごとに5か所で設定し、郷土の伝統と文化への関心を高める観点や学び方の手がかりを「地域調査の手引き」で示している。</p> <p>○巻末の年表は全時代を一覧できる両開き折り込みにしている。</p> <p>○各見開きの最初に中学生や教師のキャラクターが出て、吹き出しで資料読み取りの視点や学習のポイントを提示している。</p> <p>○人物の肖像にマークを付し、小学校で登場した人物とこの教科書で登場する人物とを明らかにしている。</p> <p>○文章は敬体（です、ます）で、ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p> <p>○時代ごとに印刷の枠色を変え、各見開きに時間尺を付している。</p> <p>○1学年の学習範囲では、小学校6学年の配当漢字にもふりがなを付している。</p>
<p style="text-align: center;">総 括</p>	<p>○章末等には、24のテーマからなる特設ページが入り、大きな資料と簡潔な文章で時代の特色をとらえやすく構成している。</p> <p>○章末に「学習のまとめと表現」が設けられ、年表や「時代の変化に注目しよう」などで復習やまとめをし、ここで見た資料と次章扉の資料が連動する構成になっている。</p>

書名		35 清水
項目	中学 歴史 日本の歴史と世界	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○日本の歴史を核にしなが、近隣諸国や西洋との歴史的環境についても古代から近代まで系統的に記述し、国際協調の精神を養おうとしている。</p> <p>○歴史的資料をはじめ、地図・グラフなども時代の特色をとらえやすいように掲載し、歴史にまつわるエピソードや歴史学の方法論に関する特設ページとあわせて多面的・多角的に考察できるようにしている。</p>	
特色	内容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間として、始めに学習のめあて、終わりに「まとめてみよう」を設け、見通し→展開→振り返りの流れで構成している。また、章扉で課題を示し、章末でまとめる構成をとっている。</p> <p>○調べ学習の方法・技能を習得させるために、6か所の「歴史のとびら」を設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの終わりの「まとめてみよう・深めよう」、随所に挿入される図版や資料を読み取るためのヒント、章末のまとめのページなどで、生徒自らが作業を行って歴史理解を進め、歴史的意義を探究し、的確な判断力や豊かな表現力を養うための言語活動ができるようにしている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○見開きの学習のめあてと「まとめてみよう」という生徒への具体的課題が設定されていて、授業への参加がしやすくなっている。また、歴史にまつわるエピソードを取り上げた9か所の「もっと知りたい歴史」によって、本文の通史以外のから歴史的事象に興味を高めさせるようにしている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○二つの特設コーナー「もっと知りたい歴史」と「歴史のとびら」をあわせた15のテーマのうち、12のテーマは多くの地域調査につながるものであり、これらの活用を通じて地域への理解が深められるようになっている。</p>
	資料	<p>○古代から近世までの人びとの服装は独自のイラストで示し、陶磁器や仏像には大きさを付している。</p> <p>○世界史をとらえるための世界歴史地図を大きく掲載している。</p> <p>○使用頻度が高い「国県対照図」や現代の「世界の地図」を、巻末や折り込みに大きいサイズで配置している。</p>
	表記・表現	<p>○文章は常体（だ、である）で、ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p> <p>○時代ごとに印刷の枠色を変えている。</p> <p>○巻末の人名さくいんで、小学校の既習人物に肖像画を付している。</p>
総括	<p>○B5判であるため、特設コーナーの構成を簡潔にしている。「歴史のとびら」では歴史学の6つの方法論を取り上げ、「もっと知りたい歴史」では歴史を多面的に学ぶために9つのテーマを取り上げている。</p> <p>○「地図で見る世界史」として原始・古代から中世の3か所で、アジアからヨーロッパにかけての状況を地図と資料でまとめている。</p>	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き</p> <p style="text-align: right;">46 帝国</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○異なる考えや対立する考えを併記し、女性の社会的立場や差別された人々などの人権にかかわる記述を紹介して、多面的・多角的に歴史を考えられるようにしている。</p> <p>○文化のページを多くとることによって、文化を育んだ人々とその社会背景を理解し、人物や文化遺産を尊敬する態度を育てるようにしている。</p>
<p>特 色</p> <p>内 容</p> <p>資 料</p> <p>表記・表現</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きの1単位時間分を、興味・関心を引く「導入」資料、学習を見通す「学習課題」、学習内容を振り返る「確認しよう」の流れで構造化し、各部にも見通しの「タイムトラベル」と振り返りの「学習をふりかえろう」を設けている。</p> <p>○「技能をみがく」コラムを11か所設け、歴史の調査やまとめに必要な基礎的スキルを身につけるようにしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの最後に「説明しよう」が設けられ、本時の学習内容にもとづいて思考し、判断・表現する活動を毎時間繰り返し行えるようにしている。部末の「学習をふりかえろう」でも「説明しよう」を設けて多様な言語活動を取り入れている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○予習・復習をしやすいように、各見開きに「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」が、各部末には復習のために「学習をふりかえろう」を設けている。また、中学生キャラクターによる発問や気づきなどの提示で学習の視点をとらえやすくしている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○学習した内容を地域の具体例に照らし合わせて掘り下げる「歴史を探ろう」を、11か所設けて、地域から歴史をとらえられるようにするとともに、コラムとして「地域史」を22か所設けて関心を深めさせるようにしている。</p> <p>○各時代の冒頭に「タイムトラベル・○○時代をながめてみよう」というイラストを示し、時代の様子をとらえて学習がはじめられるようにしている。</p> <p>○各見開きの最初に「導入資料」を掲載し、中学生キャラクターによる吹き出しで資料読み取りの視点を提示している。</p> <p>○各時代の文化は4ページ取りで、資料を大きく載せている。</p> <p>○文章は敬体（です、ます）で、時代ごとに印刷の枠色を変え、ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p> <p>○用語解説は、54項目を該当ページに適宜挿入している。</p> <p>○巻末に人物さくいんを設け、活躍した分野を記号化して付している。</p>
<p>総 括</p>	<p>○「タイムトラベル」での見開きイラストを使って、各章のはじめの学習課題と、章末の振り返りの活動を連携させている。</p> <p>○地図や鳥瞰図を多用して、地理的分野との関連をとらえやすくする工夫をするるとともに、文化史のページにおける美術作品等の占めるスペースを大きく取っている。</p>

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">中学社会 歴史的分野</p> <p style="text-align: right;">116 日文</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○各時代に、意欲的に学習に取り組むことを目的にした「導入」を設定し、各時代の前半部分に「時代の転換のようす」を置き、編末の「まとめ」で、既習の知識を活用して、時代の大きな流れを理解させるようにしている。</p> <p>○特設ページで幅広いテーマを取り上げ、今日的課題の歴史的背景や先人の業績を学んだりして、人物や文化遺産を尊敬する態度を育てようとしている。</p>
<p style="text-align: center;">特 色</p> <p style="text-align: center;">内 容</p> <p style="text-align: center;">資 料</p> <p style="text-align: center;">表 記・ 表 現</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間として、始めの「学習課題」で何を学ぶかを明示し、終わりの側注欄に「学習の確認」を設けて、学習のポイントの確実な定着をねらいとした学習活動を提示している。</p> <p>○「スキルUP」を7か所設け、歴史の調査やまとめに必要な基礎的技能を身に付けさせようとしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの終わりの「学習の活用」、各時代の「導入」と「学習の活用—とらえよう！時代の特色」、各時代の前半部分の「とらえよう！時代の転換」、編末の「学習の活用—とらえよう！時代の特色」などで言語活動を設定し、わかったことを自分の言葉で表現する多様な活動ができるように構成している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○各見開きの「学習の確認と活用」、各時代の「とらえよう！時代の転換」や「学習の活用—とらえよう！時代の特色」などの言語活動は、課題の発見と解決に向けて生徒が主体的・協働的に学ぶようにしている。また、10か所の「歴史を掘り下げる」で歴史的事象への関心を高めている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○6か所の「でかけよう！地域調べ」と8か所の「先人に学ぶ」で、身近な地域の歴史や先人の業績への関心を育て、身近にある具体的な事例との関わりのなかで我が国の歴史を理解させようとしている。</p> <p>○各編・章の導入に「地図で見る世界の動き」をおき、世界の様子を概観して、世界の動きの中での日本史をとらえやすくしている。</p> <p>○各編に「図版特集」をおいて、衣食住や町のようすなどをとらえやすくし、巻末に「歴史学習の基礎資料」を載せている。</p> <p>○中学生キャラクターによる吹き出しで資料読み取りの視点を提示している。</p> <p>○文章は敬体（です、ます）で、ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。また、脚注に小学校や他分野、他項での学習との関連事項を示す。</p> <p>○時代ごとに印刷の枠色を変え、各見開きに時間尺を付している。</p> <p>○巻末のさくいんは、人名・事項のほかにテーマ別の項目を設けている。</p>
<p style="text-align: center;">総 括</p>	<p>○各編・章のはじめに大判の資料を配し、これから学習する時代のイメージをとらえるとともに、次の見開きに「地図で見る世界の動き」をおき、世界の動きと日本との関係を理解しやすくしている。</p> <p>○各時代の途中に「図版特集」や「とらえよう！時代の転換」をおいて、時代像の特色をとらえさせようとしている。</p>

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">中学社会 新しい歴史教科書</p> <p style="text-align: right;">225 自由社</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○7世紀と19世紀後半を我が国の2度の自立国家形成過程として重点的に時間を配分し、我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせようとしている。</p> <p>○各時代に日本人が外部の人々から評価された資料を載せ、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てようとしている、</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">特色</p> <p style="text-align: center;">内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間として、始めに学習課題を示し、終わりの「まとめにチャレンジ」で学習を振り返る作業をして復習の手がかりにする構成になっている。</p> <p>○各章末にキャラクターによる時代区分についての問答コーナーを設け、会話のやり取りを通して前後の時代との違いをとらえやすくしている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各見開き終わりの「まとめにチャレンジ」での説明する作業、各章末のまとめ「○○とはどんな時代か」での時代の特色をまとめる作業、巻末の「日本の歴史の特色は何か」での日本史全体を6つの課題にもとづいてスピーチ原稿にまとめる作業と、多様な言語活動を設定している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「もっと知りたい」「人物クローズアップ」「外目から見た日本」の3つの特設コーナーを、合わせて35のテーマで設けており、本文以外のエピソードや人物像を読み物形式で知ること、歴史に対する興味・関心を深めながら学習に取り組みせようとしている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○「神話が語る国の始まり」を1単元として2ページ分に取り扱うほか、特設コーナー「外目から見た日本」や、巻末の「日本の歴史の特色は何か」で我が国の特徴をとらえさせようとしている。</p>
<p style="text-align: center;">資 料</p>	<p>○章扉では中学生キャラクターが写真資料を見ながら、各時代の特色や視点を会話形式で提示している。</p> <p>○人物の肖像資料を多く載せている。</p> <p>○年表は巻末に通常ページの5ページ分で掲載している。また、裏表紙見返しに年号・西暦早見表を掲載している。</p>
<p style="text-align: center;">表記・表現</p>	<p>○文章は常体（だ、である）である。</p> <p>○時代ごとに印刷の枠色を変え、小単元には全編の通し番号を付けている。</p> <p>○各章末に「歴史豆辞典」として15項目ずつの100字用語解説を設けている。また、側中欄の注釈の項目数も多い。</p>
<p style="text-align: center;">総 括</p>	<p>○B5判であるが、35のテーマの特設コーナーを掲載し、日本人の特徴について目を向けさせようとしている。</p> <p>○我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせることと、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てることに重点を置いた構成にしている。</p>

書名		227 育鵬社
項目	新編 新しい日本の歴史	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○各章扉の「海洋国家日本のあゆみ」で古代からの海外との交流に気づかせ、6か所の「このころの世界は」で世界史の中の位置づけを理解させる構成をとり、国際協調の精神を養うようにしている。</p> <p>○人物を取り上げたコラムや各時代を代表する女性を集めた特設コーナーが工夫され、歴史上の人物を尊重する態度を育てるようにしている。</p>	
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開きを1単位時間として、「つかむ、調べる、まとめる」という問題解決型に教材を配列し、導入資料と学習課題によってつかみ、本文と図版資料で調べ、最後の学習のまとめで振り返りができるように構成している。</p> <p>○「課題学習」で博物館での調査方法や歴史新聞の作成方法を示し、巻末に博物館等のホームページの一覧を掲載して調査技能のアップをはかっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○見開きの終わりには、学習した内容を説明するための設問をおき、論述形式でまとめたり、自分の考えを発表したりするなどし、各章末の「学習のまとめ」では、ワーク的な活動のほかに生徒が自らの言葉で時代の特色を表す課題を設定して、多様な言語活動の充実をはかっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○6か所の「課題学習」で、生徒自らが聞き取りをする調査やグループ学習、作業的・体験的学習など、生徒が主体的、意欲的に友達と協働して学ぶ活動を配置している。また、15か所の「歴史ズームイン」で歴史的事象への関心を高めている。</p> <p><我が国の歴史に対する理解と愛情を深めさせる工夫></p> <p>○「課題学習」「人物クローズアップ」「歴史ズームイン」の3つの特設コーナーの半数以上で、各テーマに関連する身近な事象について調べてみることで、キャラクターの吹き出しによって勧められている。</p>
	資 料	<p>○各章の導入の「歴史絵巻」でのイラストと、次の「〇〇へようこそ」での大判の絵画で、時代の特色をとらえられるようにしている。</p> <p>○見開きの最初に「導入資料」を掲載し、中学生キャラクターによる吹き出しで資料読み取りの視点を提示している。</p> <p>○仏像・美術作品・工芸品等の写真資料には実寸を併記している。</p>
	表記・表現	<p>○文章は敬体（です、ます）で色覚に留意した色彩や紙面デザインにしている。</p> <p>○時代ごとに印刷の枠色を変え、小單元には全編の通し番号を付けている。</p> <p>○側注欄の注釈の項目数が多い。また、巻末の索引は、人名・事項ともに本文中の太字用語がわかるようにしている。</p>
総 括	<p>○各章の構成が簡潔で、章扉に「海洋国家日本の歩み」の資料を載せ、導入の「鳥の目で見える歴史絵巻」で時代の流れを大局的に見せ、「虫の目で見える〇〇の世界へようこそ」で絵画資料の細部に注目させている。</p> <p>○各章の途中の「このころの世界は」で世界史と日本史のつながりに気づかせ、「なでしこ日本史」での15人の女性のほか、多くの人物に注目させている。</p>	

*P30の人形埴輪は、名称「踊る埴輪」だが、踊っているのではない説が有力。大里郡出土になっているが、旧大里郡江南町なので、現在は熊谷市出土が正しい。

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: right;">2 東書</p> <p style="text-align: center;">新編 新しい社会 公民</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○我が国や国際社会が抱える諸課題について、現状と解決のための取組を取り上げて解決のためにできることを考えるようにしていることで、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるようになっている。</p> <p>○写真やイラスト、生徒が主体的に学習する場面の設定、日常生活に関連する話題などを多数掲載し、現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。</p>
<p>特色</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開き1単位時間を、興味・関心を喚起する導入資料→学習のめあてを示す「学習課題」→丁寧に分かりやすい本文・本文を補完する豊富な資料→学習内容をまとめる「確認」、という流れで構造化している。</p> <p>○探究に必要な技能を身に付ける「調査の達人」を設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各見開きにある「確認」では、説明や要約などの短時間で取り組める言語活動が設定されている。また、小集団による話し合い学習などを想定した「公民にチャレンジ」が20ほど設定されている。</p> <p>○各章ごとに、章の導入とまとめがリンクした多様な言語活動が考えられている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「公民にチャレンジ・私たちの政治参加」では、中学校での取組を具体例にした社会参画のプロセスを明示している。</p> <p>○実際に社会参画をしている人々の「インタビューコラム」を掲載し、自らの在り方・生き方について考えるように工夫している。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <p>○「第2章 個人の尊重と日本国憲法」の導入とまとめに、アクティビティ「ちがいのちがい」を配している。12枚のカードを検討する際の資料も付されており、根拠に基づいた判断をするように工夫されている。また、ディベートでの取り組み方も示されている。</p>
	<p>資料</p> <p>○巻末には、統計・資料として年表形式の「現代社会の歩み」と「世界の現状」、日本国憲法をはじめとする28の「参考法令集」、「用語解説」、「さくいん」が掲載されている。</p> <p>○地理や歴史との関連を示す「分野関連マーク」や伝統と文化に目を向け尊重する態度を養うための「国宝・重文マーク」、「世界遺産マーク」を付している。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○文体は、敬体（です・ます体）を用い、重要語句は太字で示している。また、本文中に、前出・後出箇所を示すページが示されている。</p> <p>○資料には見開きごとのまとまりで通し番号が付けられており、対応する本文の上に当該の図番号を付すなど使いやすさに配慮している。</p> <p>○ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p>
<p>総括</p>	<p>○対立と合意、効率と公正の見方や考え方について、これらを活用して考える活動が分野を通して行なえるよう、全体で17か所に「効率と公正のマーク」を付している。</p> <p>○終章の「よりよい社会を目指して」では、持続可能な社会の形成について、学習成果を生かして、環境、人権、平和、伝統文化などの多様な面から追究し、一人一人が考え、レポートを作成するよう構成されている。</p>

書名		17 教出
項目	中学社会 公民 とともに生きる	
教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり	<p>○新聞の活用の仕方や表現活動を中心としたテーマ学習を通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養おうとする学習を設定するなど、公民として必要な基礎的教養を培おうとしている。</p> <p>○教科書の導入の「公民の学習をはじめるにあたって」や各章の導入の「はじめに」を通して、現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。</p>	
特 色	内 容	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開き1単位時間では、左上に中心資料を配置し、キャラクターの問いから学習を展開していく形式をとり、「学習課題」も明示している。右下の「ふりかえる」のステップ1で基礎的事項の確認ができるように工夫されている。</p> <p>○「公民にアプローチ」では、新聞の活用の仕方を4ページにわたり示している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「ふりかえる」のステップ2では、社会的事象についての説明や話し合い活動が示されている。また、「読み解こう」では、資料を読み取り、考えを深めるための手立てが示されている。</p> <p>○「言葉で伝えあおう」では6つのテーマの言語活動に取り組むようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「読んで深く考えよう」では、資料を読み深めていくテーマ学習を6つ設定している。</p> <p>○学習から興味や関心を広げていく29のコラム「公民の窓」や学習をさらに深めていく11のコラム「クリップ」が掲載されている。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <p>○「第2章 人間を尊重する日本国憲法」の中で「ともに生きる社会をみざす人たち」では部落差別やハンセン病を扱い、「犯罪の防止か、プライバシーの保護か」では監視カメラと肖像権やプライバシーの権利を扱うなど、深化の学習として設定されている。</p>
	資 料	<p>○巻末には、日本国憲法をはじめとする32の「参考法令集」、「用語解説」、「さくいん」、「欧文略称」が、本文中に年表形式の「日本と世界の歩み」が掲載されている。</p> <p>○見開き左下に「章タイトル」と右下に「学習パート」を示し、教科書全体における位置を明らかにしている。</p>
	表記・表現	<p>○文体は、敬体（です・ます体）を用い、重要語句は太字で、本文中に前出・後出箇所を示すページが示されている。側注解説で補足解説や語句の解説をしている。</p> <p>○資料には見開きごとのまとまりで通し番号が付けられており、対応する本文の上に当該の図番号を付すなど使いやすさに配慮している。</p> <p>○ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p>
総 括	<p>○対立と合意・効率と公正に関わる学習では、マンションの駐車場問題についての事例を中心に学習を展開している。</p> <p>○終章では、「未来への私の約束をつくろう」をテーマに、これからの社会を築いていくために自分には何ができるのかを、考えさまざまな方法でまとめる学習が考えられている。また、行動計画を実践していくことも想定している。</p>	

<p>項目</p>	<p>書名</p> <p style="text-align: right;">35 清水</p> <p style="text-align: center;">中学 公民 日本の社会と世界</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかわり</p>	<p>○各章の扉に、章と関連があり、生徒の関心を喚起する人物を取り上げ、その言葉や著作の一部を紹介することで現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。</p> <p>○考える力をはぐくむ契機となるような問いかけを多く配置することで、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てようとしている。</p>
<p>特色</p> <p>内容</p> <p>資料</p> <p>表記・表現</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開き1単位時間では、学習課題を「学習目標」として明示し、図表、資料、コラム、本文を活用しながら、学習課題を追究し深めていくという構成をとっている。</p> <p>○関連する資料や条文を紹介する「知識」やさらに説明する「補足説明」がある。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○学習に関連するテーマを掘り下げて解説した「深める公民」が11テーマ用意されている。</p> <p>○各章末のまとめの中に、各章のキーワードが示された「次のことばについて説明しよう」という学習が計画されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○「もっと知りたい公民」では、学習に関連するテーマを図版や写真を中心に解説していて、さらに興味や関心を広げ、社会を多角的に見るようにしている。</p> <p>○学習内容への理解を深めるために考えたり、話し合ったり、調べたりするための視点を示した「調査」が豊富に設定されている。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <p>○「第1編 私たちの生活と政治」の中で、冤罪から立憲主義を考えさせる「冤罪と日本国憲法—憲法とは何か」、さまざまな人権課題に触れている「平等権について考える」、具体例に学ぶ「社会権について考える」、国際化時代の人権を扱った「人権を守る心は国境をこえて」、が深化の学習として設定されている。</p> <p>○前見返しには、「現代の世界」、後見返しには、年表形式の「現代社会の動き」、巻末には、日本国憲法をはじめとする29の「参考法令集」、「さくいん」が配置されている。</p> <p>○見開きのおもに左右に本文を取り囲むように資料や注を配置し、シンプルな構成となっている。</p> <p>○文体は、常体（だ・である）を用い、重要語句は太字で示している。また、本文中に、前出・後出箇所を示すページが示されている。また、本文中に注を示す番号を付し、解説している。</p> <p>○図表・資料などを活用しながら展開できるように図番号を付している。</p> <p>○ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p>
<p>総括</p>	<p>○対立と合意・効率と公正に関わる学習では、部活動の体育館使用の割り振りをどうするのかという事例を中心に学習を展開している。</p> <p>○終章の「国際社会を生きる」の中で「卒業論文を書いてみよう」という学習を設定している。持続可能な社会の実現をテーマに論文の書き方から発表までの学習の流れを示している。</p>

<p>項目</p>	<p>書名 社会科 中学生の公民 よりよい社会を求めて</p> <p style="text-align: right;">46 帝国</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○章の導入でイラストや資料から読み取り作業を行なう「学習の前に」やシミュレーション仕立ての「連続コラム」などで、現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。</p> <p>○現在、将来に直面するであろう課題や解決に向けての取組を踏みこんで提示し、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てようとしている。</p>
<p>特色</p>	<p>内容</p> <p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開き1単位時間では、「クローズアップ」で興味・関心を引き出し、「学習課題」につなげ、「確認しよう」で、基礎的・基本的な知識の確認を行う。また、「資料活用」では、地図やグラフなどの注目すべき点を提示している。</p> <p>○「技能をみがく」が「トライアル公民」に併記され学習の効果を高めている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○毎時の「説明しよう」や単元の最後の「学習をふりかえろう」で知識を活用し、言語活動を行うようになっている。</p> <p>○「トライアル公民」では、対立と合意・効率と公正の視点から、意見をまとめたり、話し合ったりするための題材を7テーマ用意している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○終章のレポート作成にむけて、本書全体にレポート作成のヒントやきっかけとなる「テーマ例」を示している。</p> <p>○「羅針盤マーク」では、未来の社会をつくるために参考になる6テーマ・20例にわたる取組を、「How to…」では将来に役立つ知識を、紹介している。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <p>○「第2部 私たちと民主政治」の中で「青果店を営む男性はどうなる～権利の保障と公共の福祉を考える」というテーマで、公共の福祉と人権の制限について理解を深めさせる学習が設定されている。その際、対立と合意・効率と公正の視点も活用している。各人権課題の資料も豊富に掲載されている。</p> <p>資料</p> <p>○資料として、日本国憲法をはじめとする26の「参考法令集」「さくいん」が掲載されている。巻末には、年表形式の「第二次世界大戦後の歩み」が掲載されている。</p> <p>○「地理・歴史をふりかえる」では地歴で学んできた語句を紹介し、「Yes No」では、あるテーマについて、賛成・反対意見を紹介している。わかりにくい用語については「解説」を施している。</p> <p>表記・表現</p> <p>○文体は、敬体（です・ます体）を用い、重要語句は太字で示している。また、本文中に、前出・後出箇所を示すページが示されている。</p> <p>○資料には見開きごとのまとまりで通し番号が付けられており、対応する本文の上に当該の図番号を付すなど使いやすさに配慮している。</p> <p>○ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p>
<p>総括</p>	<p>○対立と合意・効率と公正に関わる学習では、「住みよいマンションにしていこう」をテーマに、マンションの問題解決を通して理解させるような構成になっている。</p> <p>○終章の「より良い社会をめざして」では、持続可能な社会の実現に向けてどのように行動すべきなのかをテーマに、レポートの作成から発表までの手順を示している。</p>

<p>項目</p>	<p>書名</p> <p style="text-align: center;">中学社会 新しい公民教科書</p> <p style="text-align: right;">225 自由社</p>	
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○「序章 現代日本の自画像」では、歴史の学習からの接続を意識しながら、現代日本の諸課題をあきらかにすることで、現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。</p> <p>○現代社会の特色や課題について基礎的基本的な内容を活用しながら考えることができるようになっており、自ら考える態度を育てようとしている。</p>	
<p>特色</p>	<p>内 容</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開き1単位時間では、学習課題が明示され、資料を使いながら学びを進めていくようになっている。「ここがポイント」では、見開きに関するポイントを2～3の文章で端的に示している。</p> <p>○各章の終わりに「学習のまとめ」がおかれ、最重要語句が明示されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○「学習のまとめ」で示された最重要語句を使って、100～200字でまとめる課題があり、学習の確実な理解を促している。</p> <p>○各章の終わりに「学習の発展」がおかれ、400字程度でまとめる記述式の課題が複数用意されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○重要なことがらを深く理解するためのコラム「もっと知りたい」が21ほど見開きで掲載されている。</p> <p>○36のコラム「ミニ知識」では、公民の重要な言葉や事柄を学習するうえでヒントになる記事が示されている。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <p>○「第3章 日本国憲法と立憲的民主政治」の中ではコラム「もっと知りたい」で、「権利の平等に関する問題」として部落差別問題と外国人参政権を扱い、「新しい権利」としてプライバシーの権利・知る権利・環境権を扱い、深化の学習としている。「日本人拉致問題」についても見開きで取り上げている。</p>
	<p>資 料</p>	<p>○巻末には、日本国憲法をはじめとする30の「参考法令集」、「さくいん」が配置されている。また、本文の中で、年表形式の「日本と世界の歩み」が掲載されている。</p> <p>○見返しでは、「世界に誇る日本の先端技術」や「わが国の領域」を写真とともに掲載している。</p>
	<p>表記・表現</p>	<p>○文体は、敬体（です・ます体）を用い、重要語句は太字で示している。側注解説で補足解説や語句の解説をしている。</p> <p>○紙面はB版である。見開きの学習タイトルには、各章を貫く1～65の通し番号が振られている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○対立と合意・効率と公正に関わる学習では、学校生活におけるルールや学校の体育館使用に関する事例をあげている。</p> <p>○終章では、「レポートと卒業論文をつくろう」というテーマで、行ってみたい国を調べ紹介するレポートの作成と持続可能な日本社会をつくるために私たちは何ができるのかという卒業論文を作成する課題が示されている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: right;">227 育鵬社</p> <p style="text-align: center;">新編 新しいみんなの公民</p>
<p>教育基本法、学校教育法の下、中学校学習指導要領の教科の目標とのかかわり</p>	<p>○冒頭に「地理・歴史・公民の概念図」を示し、「人生モノサシ—15歳からの自分の過去・現在・未来」に取り組むことで、自分の立ち位置を知り、現代の社会的事象に対する関心を高めようとしている。</p> <p>○現代社会の理想と現実を、本文・資料・コラムで示し、多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力を育てようとしている。</p>
<p>特 色</p> <p>内 容</p> <p>資 料</p> <p>表記・表現</p>	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得する工夫></p> <p>○見開き1単位時間を、導入資料で興味・関心を喚起し課題をつかむ、本文や図版・写真資料で内容を具体的に調べ理解する、「学習のまとめ」で学習内容の定着を図るというステップで構成している。</p> <p>○各章の「学習のまとめ」で重要語句が示されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各章の冒頭に、「法の入り口」といったような「〇〇の入り口」を見開きで設定し、その章の学習内容の趣旨をとらえさせる言語活動を設けている。</p> <p>○「学習のまとめ」に取り組むことにより、毎時間の学習の中で無理なく生徒の思考力・判断力・表現力をはぐくめるように工夫している。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○30のコラム「理解をふかめよう」や「考えよう」では、見開きの学習内容に関連する情報や発展的な内容を取り扱っている。</p> <p>○主体的な学習を促す「やってみよう」では、ディベート、シミュレーション学習、話し合いなどの学習を提示している。</p> <p><民主主義に対する理解を深めさせる工夫></p> <p>○「第2章 私たちの生活と政治」の中で、「男女の平等と家族の価値」、「ともに生きるためにできること」、「人種差別をなくすために」、「世界の人権問題」が深化の学習として設定されている。「北朝鮮による日本人拉致事件」も見開きで取り上げている。</p> <p>○巻末には、日本国憲法をはじめとする29の「参考法令集」、「さくいん」が配置されている。また、見開きで、年表形式の「戦後の日本と世界の主なできごと」が掲載されている。</p> <p>○新聞を活用した授業を促すために、新聞記事を多数掲載している。新しい資料も多く用いられている。学習内容に関連した情報も多数掲載されている。</p> <p>○文体は、敬体（です・ます体）を用い、重要語句は太字で示されている。本文中に、前出・後出箇所を示すページが示され、側注が設けられ補足説明がなされている。</p> <p>○資料には見開きごとに通し番号を付け活用しやすいよう配慮されている。</p> <p>○ユニバーサルデザインによる配色やレイアウトをしている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○対立と合意・効率と公正に関わる学習では、文化祭の劇の主役を誰にするのかという事例を中心に学習を展開している。</p> <p>○終章は、「私は内閣総理大臣「持続可能な社会」を築いていくための国づくり構想を立ててみよう」という形式で、「持続可能な社会をめざす日本」をテーマにしたレポート作成に取り組むようになっている。</p>